



EIGRP

この章では、Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) を使用してデータをルーティングし、認証を実行し、ルーティング情報を再配布するように Cisco ASA を設定する方法について説明します。

- [EIGRPについて \(1ページ\)](#)
- [EIGRPのガイドライン \(3ページ\)](#)
- [EIGRPプロセスの設定 \(3ページ\)](#)
- [EIGRPの設定 \(4ページ\)](#)
- [EIGRPのカスタマイズ \(7ページ\)](#)
- [EIGRPのモニタリング \(22ページ\)](#)
- [EIGRPの履歴 \(23ページ\)](#)

EIGRPについて

EIGRPは、シスコが開発した、IGRPの拡張バージョンです。IGRPやRIPと異なり、EIGRPが定期的にルートアップデートを送信することはありません。EIGRPアップデートは、ネットワークトポロジが変更された場合にだけ送信されます。EIGRPを他のルーティングプロトコルと区別する主な機能には、迅速なコンバージェンス、可変長サブネットマスクのサポート、部分的アップデートのサポート、複数のネットワークレイヤプロトコルのサポートなどがあります。

EIGRPを実行するルータでは、すべてのネイバールーティングテーブルが格納されているため、代替ルートに迅速に適応できます。適切なルートが存在しない場合、EIGRPはそのネイバーにクエリーを送信して代替のルートを検出します。これらのクエリーは、代替ルートが検出されるまで伝搬します。EIGRPでは可変長サブネットマスクがサポートされているため、ルートはネットワーク番号の境界で自動的に集約されます。さらに、任意のインターフェイスの任意のビット境界で集約を行うようにEIGRPを設定することもできます。EIGRPは定期的なアップデートを行いません。その代わり、ルートのメトリックが変更されたときだけ、部分的なアップデートを送信します。部分的アップデートの伝搬では、境界が自動的に設定されるため、その情報を必要とするルータだけがアップデートされます。これらの2つの機能により、EIGRPの帯域幅消費量はIGRPに比べて大幅に減少します。

ネイバー探索は、ASA が直接接続されているネットワーク上にある他のルータをダイナミックに把握するために使用するプロセスです。EIGRP ルータは、マルチキャスト hello パケットを送信して、ネットワーク上に自分が存在していることを通知します。ASA は、新しいネイバーから hello パケットを受信すると、トポロジテーブルに初期化ビットを設定してそのネイバーに送信します。ネイバーは、初期化ビットが設定されたトポロジアップデートを受信すると、自分のトポロジテーブルを ASA に返送します。

hello パケットはマルチキャストメッセージとして送信されます。hello メッセージへの応答は想定されていません。ただし、スタティックに定義されたネイバーの場合は例外です。**neighbor** コマンドを使用して（またはASDMで[Hello Interval]を設定して）ネイバーを設定すると、そのネイバーへ送信されるhelloメッセージはユニキャストメッセージとして送信されます。ルーティングアップデートと確認応答が、ユニキャストメッセージとして送信されます。

このネイバー関係が確立した後は、ネットワークトポジが変更された場合にだけ、ルーティングアップデートが交換されます。ネイバー関係は、hello パケットによって維持されます。ネイバーから受信した各 hello パケットには、保持時間が含まれています。ASA は、この時間内にそのネイバーから hello パケットを受信すると想定できます。ASA が保持時間内にそのネイバーからアドバタイズされた hello パケットを受信しない場合、ASA はそのネイバーを使用不能と見なします。

EIGRP プロトコルは、ネイバーの検出、ネイバーの回復、Reliable Transport Protocol (RTP)、およびルート計算に重要な DUAL を含む、4 の主要なアルゴリズムテクノロジーと 4 つの主要なテクノロジーを使用します。DUAL は、最小コストのルートだけでなく、宛先へのすべてのルートをトポロジテーブルに保存します。最小コストのルートはルーティングテーブルに挿入されます。その他のルートは、トポロジテーブルに残ります。メインのルートに障害が発生したら、フィジブルサクセサから別のルートが選択されます。サクセサとは、宛先への最小コストパスを持ち、パケット転送に使用される隣接ルータです。フィジビリティ計算によって、パスがルーティングループを形成しないことが保証されます。

フィジブルサクセサがトポロジテーブル内にない場合、必ずルート計算が発生します。ルートの再計算中、DUAL は EIGRP ネイバーにルートを求めるクエリーを送信して、次に EIGRP ネイバーがそのネイバーにクエリーを送信します。ルートのフィジブルサクセサがないルータは、到達不能メッセージを返します。

ルートの再計算中、DUAL は、ルートをアクティブとマークします。デフォルトでは、ASA は、ネイバーから応答が返ってくるのを 3 分間待ちます。ASA がネイバーから応答を受信しないと、そのルートは stuck-in-active とマークされます。トポロジテーブル内のルートのうち、応答しないネイバーをフィジブルサクセサとして指しているものはすべて削除されます。



(注) EIGRP ネイバー関係では、GRE トンネルを使用しない IPsec トンネルの通過はサポートされていません。

EIGRP のガイドライン

ファイアウォール モードのガイドライン

ルーティング ファイアウォール モードでだけサポートされています。トランスペアレント ファイアウォール モードはサポートされません。

クラスタのガイドライン

EIGRP は、個別のインターフェイス モードのクラスタ ピアとのネイバー 関係を形成しません。

IPv6 のガイドライン

IPv6 はサポートされません。

コンテキストのガイドライン

- デフォルトでは、共有インターフェイス 間でのマルチキャスト トランザクションのコンテキスト間交換がサポートされていないため、EIGRP インスタンスは共有インターフェイス 間で相互に隣接関係を形成できません。ただし、EIGRP プロセスの EIGRP プロセス設定で静的ネイバー設定を使用すると、共有インターフェイス 間の EIGRP ネイバーシップを形成できます。
- 個別のインターフェイス 間のコンテキスト間 EIGRP がサポートされています。

その他のガイドライン

最大 1 つの EIGRP プロセスがサポートされます。

EIGRP プロセスの設定

手順

-
- メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] の順に選択します。
 - EIGRP ルーティング プロセスをイネーブルにするには、[Process Instances] タブの [Enable this EIGRP process] チェックボックスをオンにします。EIGRP のイネーブル化 (4 ページ) または EIGRP スタブル ルーティングのイネーブル化 (6 ページ) を参照してください。
 - [Setup] > [Networks] タブで、EIGRP ルーティングに参加するネットワークとインターフェイスを定義します。詳細については、「EIGRP ルーティング プロセスのネットワークの定義 (7 ページ)」を参照してください。

ステップ4 (任意) [Filter Rules] ペインでルート フィルタを定義します。ルート フィルタにより、EIGRP 更新で送受信することを許可されているルートをより細かく制御できます。詳細については、「[EIGRP でのネットワークのフィルタリング \(16 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ5 (任意) [Redistribution] ペインでルート再配布を定義します。

RIP および OSPF で検出されたルートを、EIGRP ルーティングプロセスに再配布することができます。スタティック ルートおよび接続されているルートも、EIGRP ルーティングプロセスに再配布できます。詳細については、「[EIGRP へのルート再配布 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ6 (任意) [Static Neighbor] ペインでスタティック EIGRP ネイバーを定義します。

詳細については、「[EIGRP ネイバーの定義 \(13 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ7 (任意) [Summary Address] ペインで、サマリーアドレスを定義します。

サマリーアドレスの定義の詳細については、「[インターフェイスでのサマリー集約アドレスの設定 \(10 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ8 (任意) [Interfaces] ペインで、インターフェイス固有の EIGRP パラメータを定義します。これらのパラメータには、EIGRP メッセージ認証、保持時間、hello 間隔、遅延メトリック、スプリットホライズンの使用などがあります。詳細については、「[EIGRP のインターフェイスの設定 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ9 (任意) [Default Information] ペインで、EIGRP 更新でのデフォルトルート情報の送受信を制御します。デフォルトルートでは、デフォルトルートが送信され、受け入れられます。詳細については、「[EIGRP でのデフォルトルート情報の設定 \(19 ページ\)](#)」を参照してください。

EIGRP の設定

この項では、システムで EIGRP プロセスをイネーブルにする方法について説明します。EIGRP をイネーブルにした後に、システムで EIGRP プロセスをカスタマイズする方法については、次の項を参照してください。

EIGRP のイネーブル化

ASA でイネーブルにすることができる EIGRP ルーティングプロセスは 1 つだけです。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

メインの [EIGRP Setup] ペインには、EIGRP をイネーブルにするための次の 3 つのタブがあります。

- [Process Instances] タブでは、各コンテキストの EIGRP ルーティングプロセスをイネーブルすることができます。シングルコンテキストモードおよびマルチコンテキストモードの両方がサポートされます。詳細については、[EIGRP のイネーブル化 \(4 ページ\)](#) と [EIGRP スタブルルーティングのイネーブル化 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
- [Networks] タブでは、EIGRP ルーティングプロセスで使用されるネットワークを指定できます。EIGRP ルーティングに参加するインターフェイスは、これらのネットワークエントリで定義されるアドレスの範囲内に存在する必要があります。アドバタイズされる直接接続およびスタティックのネットワークも、これらのネットワークエントリの範囲内である必要があります。詳細については、「[EIGRP ルーティングプロセスのネットワークの定義 \(7 ページ\)](#)」を参照してください。
- [Passive Interfaces] タブでは、1つ以上のインターフェイスをパッシブインターフェイスとして設定できます。EIGRP では、パッシブインターフェイスはルーティングアップデートの送受信を行いません。[Passive Interface] テーブルには、パッシブインターフェイスとして定義されているインターフェイスが一覧表示されます。

ステップ 2 [Enable this EIGRP process] チェックボックスをオンにします。

デバイスでイネーブルにすることができる EIGRP ルーティングプロセスは1つだけです。変更を保存できるようにするには、ルーティングプロセスの自律システム (AS) 番号を [EIGRP Process] フィールドに入力する必要があります。

ステップ 3 [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの自律システム (AS) 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。

ステップ 4 (任意) EIGRP プロセスの設定を指定するには、[Advanced] をクリックします。指定できる設定には、ルータ ID、デフォルトのメトリック、スタブルルーティング、ネイバー変更、EIGRP ルートのアドミニストレーティブディスタンスなどがあります。

ステップ 5 [Networks] タブをクリックします。

ステップ 6 新しいネットワークエントリを追加するには、[Add] をクリックします。

[Add EIGRP Network] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークエントリを削除するには、テーブルでそのエントリを選択して [Delete] をクリックします。

ステップ 7 ドロップダウンリストから、EIGRP ルーティングプロセスの AS 番号を選択します。

ステップ 8 [IP Address] フィールドに、EIGRP ルーティングプロセスに参加するネットワークの IP アドレスを入力します。

(注) ネットワークエントリを変更するには、まずそのエントリを削除してから新しいエントリを追加する必要があります。既存のエントリは編集できません。

ステップ 9 [Network Mask] フィールドに、IP アドレスに適用するネットワークマスクを入力します。

ステップ 10 [OK] をクリックします。

EIGRP スタブルーティングのイネーブル化

ASA を EIGRP スタブルーティングとしてイネーブル化し、設定することができます。スタブルーティングを使用すると、ASA で必要となるメモリおよび処理要件を減らすことができます。ASA をスタブルーティングとして設定すると、ローカル以外のトラフィックがすべて配布ルータに転送されるようになります。完全な EIGRP ルーティングテーブルを維持する必要がなくなります。一般に、配布ルータからスタブルートに送信する必要があるのは、デフォルトルートだけです。

スタブルーティングから配布ルータには、指定されたルートだけが伝搬されます。スタブルーティングである ASA は、サマリー、接続されているルート、再配布されたスタティックルート、外部ルート、および内部ルートに対するクエリーすべてに、応答として「inaccessible」というメッセージを返します。ASA がスタブルーティングとして設定されているときは、自身のスタブルーティングとしてのステータスを報告するために、特殊なピア情報パケットをすべての隣接ルータに送信します。スタブルーステータスの情報を伝えるパケットを受信したネイバーはすべて、スタブルーティングにルートのクエリーを送信しなくなり、スタブピアを持つルータはそのピアのクエリーを送信しなくなります。スタブルーティングが正しいアップデートをすべてのピアに送信するには、配布ルータが必要です。

手順

ステップ 1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ 2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの自律システム (AS) 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。

ステップ 4 EIGRP スタブルーティングプロセスを設定するには、[Advanced] をクリックします。

[Edit EIGRP Process Advanced Properties] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [Edit EIGRP Process Advanced Properties] ダイアログボックスの [Stub] 領域で、次の EIGRP スタブルーティングプロセスのうち 1 つ以上を選択します。

- [Stub Receive only] : 隣接ルータからルート情報を受信しても、それらの隣接ルータにルート情報を送信しない EIGRP スタブルーティングプロセスを設定します。このオプションを選択する場合は、他のスタブルーティングオプションを選択できません。
- [Stub Connected] : 接続済みルートをアドバタイズします。
- [Stub Static] : スタティックルートをアドバタイズします。
- [Stub Redistributed] : 再配布ルートをアドバタイズします。
- [Stub Summary] : サマリールートをアドバタイズします。

- ステップ6 [OK] をクリックします。
- ステップ7 [Networks] タブをクリックします。
- ステップ8 [Add] をクリックして、新しいネットワーク エントリを追加します。
- [Add EIGRP Network] ダイアログボックスが表示されます。ネットワーク エントリを削除するには、テーブルでそのエントリを選択し、[Delete] をクリックします。
- ステップ9 ドロップダウンリストから、EIGRP ルーティング プロセスの AS 番号を選択します。
- ステップ10 [IP Address] フィールドに、EIGRP ルーティング プロセスに参加するネットワークの IP アドレスを入力します。
- (注) ネットワーク エントリを変更するには、まずそのエントリを削除してから新しいエントリを追加する必要があります。既存のエントリは編集できません。
- ステップ11 [Network Mask] フィールドに、IP アドレスに適用するネットワーク マスクを入力します。
- ステップ12 [OK] をクリックします。

EIGRP のカスタマイズ

ここでは、EIGRP ルーティングをカスタマイズする方法について説明します。

EIGRP ルーティング プロセスのネットワークの定義

[Network] テーブルでは、EIGRP ルーティング プロセスで使用されるネットワークを指定できます。EIGRP ルーティングに参加するインターフェイスは、これらのネットワーク エントリで定義されるアドレスの範囲内に存在する必要があります。アドバタイズされる直接接続およびスタティックのネットワークも、これらのネットワーク エントリの範囲内である必要があります。

[Network] テーブルには、EIGRP ルーティング プロセス用に設定されているネットワークが表示されます。このテーブルの各行には、指定した EIGRP ルーティング プロセス用に設定されているネットワーク アドレスおよび関連するマスクが表示されます。

手順

- ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。
- [EIGRP Setup] ペインが表示されます。
- ステップ2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。
- ステップ3 [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの自律システム (AS) 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。

ステップ4 [Networks] タブをクリックします。

ステップ5 [Add] をクリックして、新しいネットワーク エントリを追加します。

[Add EIGRP Network] ダイアログボックスが表示されます。ネットワーク エントリを削除するには、テーブルでそのエントリを選択し、[Delete] をクリックします。

ステップ6 ドロップダウンリストから、EIGRP ルーティング プロセスの AS 番号を選択します。

ステップ7 [IP Address] フィールドに、EIGRP ルーティング プロセスに参加するネットワークの IP アドレスを入力します。

(注) ネットワーク エントリを変更するには、まずそのエントリを削除してから新しいエントリを追加する必要があります。既存のエントリは編集できません。

ステップ8 [Network Mask] フィールドに、IP アドレスに適用するネットワーク マスクを入力します。

ステップ9 [OK] をクリックします。

EIGRP のインターフェイスの設定

アドバタイズするネットワークに接続されているインターフェイスを EIGRP ルーティングに参加させない場合は、インターフェイスが接続されているネットワークが対象に含まれるよう ASA を設定し、そのインターフェイスが EIGRP アップデートを送受信しないようにします。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ3 [OK] をクリックします。

ステップ4 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Interfaces] の順に選択します。

[Interface] ペインが表示され、EIGRP インターフェイスの設定が表示されます。[Interface Parameters] テーブルには、ASA のすべてのインターフェイスが表示され、インターフェイスごとに次の設定を修正できます。

- 認証キーとモード。
- EIGRP hello 間隔と保持時間。
- EIGRP メトリックの計算で使用されるインターフェイス遅延メトリック。
- インターフェイスでのスプリットホライズンの使用。

- ステップ5** インターフェイス エントリを選択するには、インターフェイス エントリをダブルクリックするか、そのエントリを選択して [Edit] をクリックします。
[Edit EIGRP Interface Entry] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ6** [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの AS 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。
- ステップ7** [Hello Interval] フィールドに、インターフェイス上で送信される EIGRP hello パケット間の間隔を入力します。
有効値の範囲は、1 ~ 65535 秒です。デフォルト値は 5 秒です。
- ステップ8** [Hold Time] フィールドに、保持時間を秒単位で入力します。有効値の範囲は、1 ~ 65535 秒です。デフォルト値は 15 秒です。
- ステップ9** [Split Horizon] の [Enable] チェックボックスをオンにします。
- ステップ10** [Delay] フィールドに、遅延の値を入力します。遅延時間は 10 マイクロ秒単位です。有効値の範囲は 1 ~ 16777215 です。
- ステップ11** [Enable MD5 Authentication] チェックボックスをオンにして、EIGRP プロセス メッセージの MD5 認証をイネーブルにします。
- ステップ12** [Key] または [Key ID] の値を入力します。
- [Key] フィールドに、EIGRP 更新を認証するキーを入力します。このキーには、最大 16 文字を含めることができます。
 - [Key ID] フィールドに、キー ID 値を入力します。有効値の範囲は、1 ~ 255 です。
- ステップ13** [OK] をクリックします。

パッシブインターフェイスの設定

1つ以上のインターフェイスを受動インターフェイスとして設定できます。EIGRP の場合、受動インターフェイスではルーティングアップデートが送受信されません。ASDM の [Passive Interface] テーブルには、パッシブインターフェイスとして設定されているインターフェイスが一覧表示されます。

手順

- ステップ1** メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。
[EIGRP Setup] ペインが表示されます。
- ステップ2** [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。
- ステップ3** [OK] をクリックします。
- ステップ4** [Passive Interfaces] タブをクリックします。

■ インターフェイスでのサマリー集約アドレスの設定

ステップ5 設定するインターフェイスをドロップダウンリストから選択します。

ステップ6 [Suppress routing updates on all interfaces] チェックボックスをオンにすると、すべてのインターフェイスがパッシブとして指定されます。[Passive Interface] テーブルに表示されていないインターフェイスも、このチェックボックスがオンのときはパッシブとして設定されます。

ステップ7 パッシブインターフェイスエントリを追加するには [Add] をクリックします。

[Add EIGRP Passive Interface] ダイアログボックスが表示されます。パッシブにするインターフェイスを選択して [Add] をクリックします。パッシブインターフェイスを削除するには、テーブルでそのインターフェイスを選択して [Delete] をクリックします。

ステップ8 [OK] をクリックします。

インターフェイスでのサマリー集約アドレスの設定

サマリーアドレスはインターフェイスごとに設定できます。ネットワーク番号の境界以外でサマリーアドレスを作成する場合、または自動ルート集約がディセーブルになった ASA でサマリーアドレスを使用する場合は、手動でサマリーアドレスを定義する必要があります。ルーティングテーブルに他にも個別のルートがある場合、EIGRP は、他の個別ルートすべての中で最小のメトリックと等しいメトリックで、サマリーアドレスをインターフェイスからアドバタイズします。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Interfaces] の順に選択します。

[Interface] ペインには、EIGRPインターフェイスの設定が表示されます。[Interface Parameters] テーブルには、ASAのすべてのインターフェイスが表示され、設定をインターフェイスごとに修正できます。これらの設定の詳細については、[EIGRP のインターフェイスの設定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ2 インターフェイスの EIGRP パラメータを設定するには、インターフェイスエントリをダブルクリックするか、そのエントリを選択して [Edit] をクリックします。

ステップ3 [OK] をクリックします。

ステップ4 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Summary Address] の順に選択します。

[Summary Address] ペインには、スタティックに定義された EIGRP サマリーアドレスのテーブルが表示されます。デフォルトでは、EIGRP はサブネットルートをネットワーク レベルに集約します。[Summary Address] ペインでは、サブネット レベルに集約されるスタティックに定義された EIGRP サマリーアドレスを作成できます。

ステップ5 新しい EIGRP サマリーアドレスを追加するには [Add] をクリックし、テーブル内の既存の EIGRP サマリーアドレスを編集するには [Edit] をクリックします。

[Add Summary Address] または [Edit Summary Address] ダイアログボックスが表示されます。テーブルのエントリをダブルクリックして編集することもできます。

- ステップ6** [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの自律システム (AS) 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。
 - ステップ7** [Interface] ドロップダウンリストで、どのインターフェイスからこのサマリーアドレスをアドバタイズするかを選択します。
 - ステップ8** [IP Address] フィールドに、サマリールートの IP アドレスを入力します。
 - ステップ9** [Netmask] フィールドで、IP アドレスに適用されるネットワーク マスクを選択または入力します。
 - ステップ10** ルートのアドミニストレー ティブ ディスタンスを [Administrative Distance] フィールドに入力します。空白のままにすると、ルートのアドミニストレー ティブ ディスタンスはデフォルト値の 5 になります。
 - ステップ11** [OK] をクリックします。
-

インターフェイス遅延値の変更

インターフェイス遅延値は、EIGRP ディスタンス計算で使用されます。この値は、インターフェイスごとに変更できます。

手順

- ステップ1** メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Interfaces] の順に選択します。
[Interface] ペインには、EIGRP インターフェイスの設定が表示されます。[Interface Parameters] テーブルには、ASA のすべてのインターフェイスが表示され、設定をインターフェイスごとに修正できます。これらの設定の詳細については、[EIGRP のインターフェイスの設定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ2** インターフェイスの EIGRP パラメータの遅延値を設定するには、インターフェイス エントリをダブルクリックするか、インターフェイス エントリを選択して [Edit] をクリックします。
[Edit EIGRP Interface Entry] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ3** [Delay] フィールドに、遅延時間を 10 マイクロ秒単位で入力します。有効な値は、1 ~ 16777215 です。
 - ステップ4** [OK] をクリックします。
-

インターフェイスでの EIGRP 認証のイネーブル化

EIGRP ルート認証では、EIGRP ルーティングプロトコルからのルーティングアップデートに対する MD5 認証を提供します。MD5 キーを使用したダイジェストが各 EIGRP パケットに含まれており、承認されていない送信元からの不正なルーティングメッセージや虚偽のルーティングメッセージが取り込まれないように阻止します。

EIGRP ルート認証は、インターフェイスごとに設定します。EIGRP メッセージ認証対象として設定されたインターフェイス上にあるすべての EIGRP ネイバーには、隣接関係を確立できるように同じ認証モードとキーを設定する必要があります。



(注) EIGRP ルート認証をイネーブルにするには、事前に EIGRP をイネーブルにする必要があります。

手順

ステップ 1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ 2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの自律システム (AS) 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。

ステップ 4 [Networks] タブをクリックします。

ステップ 5 [Add] をクリックして、新しいネットワークエントリを追加します。

[Add EIGRP Network] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークエントリを削除するには、テーブルでそのエントリを選択し、[Delete] をクリックします。

ステップ 6 ドロップダウンリストから、EIGRP ルーティングプロセスの AS 番号を選択します。

ステップ 7 [IP Address] フィールドに、EIGRP ルーティングプロセスに参加するネットワークの IP アドレスを入力します。

(注) ネットワークエントリを変更するには、まずそのエントリを削除してから新しいエントリを追加する必要があります。既存のエントリは編集できません。

ステップ 8 [Network Mask] フィールドで、IP アドレスに適用されるネットワークマスクを選択するか入力します。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

ステップ 10 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Interfaces] の順に選択します。

[Interface] ペインには、EIGRP インターフェイスの設定が表示されます。[Interface Parameters] テーブルには、ASA のすべてのインターフェイスが表示され、設定をインターフェイスごとに

修正できます。これらの設定の詳細については、[EIGRP のインターフェイスの設定（8 ページ）](#) を参照してください。

ステップ11 [Enable MD5 Authentication] チェックボックスをオンにして、EIGRP プロセス メッセージの MD5 認証をイネーブルにします。このチェックボックスをオンにした後で、次のいずれかを指定します。

- [Key] フィールドに、EIGRP 更新を認証するキーを入力します。このキーの最大長は 16 文字です。
- [Key ID] フィールドに、キー ID 値を入力します。有効値の範囲は、1 ~ 255 です。

ステップ12 [OK] をクリックします。

EIGRP ネイバーの定義

EIGRP hello パケットはマルチキャストパケットとして送信されます。EIGRP ネイバーが、トンネルなど、非ブロードキャストネットワークを越えた場所にある場合、手動でネイバーを定義する必要があります。手動で EIGRP ネイバーを定義すると、hello パケットはユニキャスト メッセージとしてそのネイバーに送信されます。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ3 [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの AS 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。

ステップ4 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Static Neighbor] の順に選択します。

スタティックに定義された EIGRP ネイバーが [Static Neighbor] ペインに表示されます。EIGRP ネイバーは、ASA との間で EIGRP ルーティング情報を送受信します。通常は、ネイバー探索 プロセスによってネイバーがダイナミックに検出されます。ただし、ポイントツーポイントの非ブロードキャストネットワークでは、ネイバーをスタティックに定義する必要があります。

[Static Neighbor] テーブルの各行には、ネイバーの EIGRP 自律システム番号、ネイバー IP アドレス、およびネイバーに接続するためのインターフェイスが表示されます。

[Static Neighbor] ペインでは、スタティック ネイバーを追加または編集できます。

ステップ5 EIGRP スタティック ネイバーを追加または編集するには、[Add] または [Edit] をクリックします。

[Add EIGRP Neighbor Entry] または [Edit EIGRP Neighbor Entry] ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ6 ネイバーを設定するEIGRPプロセスのドロップダウンリストでEIGRP AS番号を選択します。
- ステップ7 [Interface Name] ドロップダウンリストからインターフェイス名を選択します。このインターフェイスを通してネイバーが使用可能になります。
- ステップ8 ネイバーのIPアドレスを [Neighbor IP Address] フィールドに入力します。
- ステップ9 [OK] をクリックします。

EIGRPへのルート再配布

RIPおよびOSPFで検出されたルートを、EIGRPルーティングプロセスに再配布することができます。スタティックルートおよび接続されているルートも、EIGRPルーティングプロセスに再配布できます。接続されているルートが、EIGRPコンフィギュレーション内の**network**文で指定された範囲に含まれている場合は、再配布する必要はありません。



(注) RIP 限定 : この手順を開始する前に、ルートマップを作成し、指定されたルーティングプロトコルのうち RIP ルーティングプロセスに再配布されるルートを詳細に定義する必要があります。

手順

- ステップ1 メインASDMウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。
[EIGRP Setup]ペインが表示されます。
- ステップ2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。
- ステップ3 [EIGRP Process] フィールドに、EIGRPプロセスのAS番号を入力します。指定できるAS番号の範囲は1～65535です。
- ステップ4 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Redistribution] の順に選択します。
[Redistribution]ペインには、他のルーティングプロトコルからEIGRPルーティングプロセスにルートを再配布するためのルールが表示されます。スタティックルートや接続済みルートをEIGRPルーティングプロセスに再配布する場合は、メトリックの設定は必須ではありませんが、設定することを推奨します。[Redistribution]ペインの各行に、1つのルート再配布エントリが表示されます。
- ステップ5 新しい再配布ルールを追加するには、[Add]をクリックします。既存の再配布ルールを編集する場合は、ステップ6に進んでください。
[Add EIGRP Redistribution Entry] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ6 既存のEIGRPスタティックネイバーを編集するには、テーブル内のアドレスを選択して[Edit]をクリックします。テーブル内のエントリをダブルクリックするという方法でも、そのエントリを編集できます。

[Edit EIGRP Redistribution Entry] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ7 このエントリが適用されるEIGRPルーティングプロセスのAS番号をドロップダウンリストで選択します。

ステップ8 [Protocol]領域で、ルーティングプロセスのプロトコルとして次のいずれかを選択してそのオプションボタンをクリックします。

- [Static]を選択すると、スタティックルートがEIGRPルーティングプロセスに再配布されます。ネットワーク設定の範囲内にあるスタティックルートはEIGRPに自動的に再配布されるため、それらのルートの再配布ルールを定義する必要はありません。
- [Connected]を選択すると、接続されているルートがEIGRPルーティングプロセスに再配布されます。ネットワーク設定の範囲内にある接続済みルートはEIGRPに自動的に再配布されるため、それらのルートの再配布ルールを定義する必要はありません。
- [RIP]を選択すると、RIPルーティングプロセスで検出されたルートがEIGRPに再配布されます。
- [OSPF]を選択すると、OSPFルーティングプロセスで検出されたルートがEIGRPに再配布されます。

ステップ9 [Optional Metrics]領域で、再配布されるルートに使用するメトリックとして次のいずれかを選択します。

- [Bandwidth]はEIGRP帯域幅メトリックで、単位はキロビット/秒です。有効値の範囲は1～4294967295です。
- [Delay]はEIGRP遅延メトリックで、単位は10マイクロ秒です。有効値の範囲は、0～4294967295です。
- [Reliability]はEIGRP信頼性メトリックです。有効値の範囲は0～255で、255は信頼性が100%であることを示します。
- [Loading]はEIGRP有効帯域幅（負荷）メトリックです。有効値の範囲は1～255で、255は負荷が100%であることを示します。
- [MTU]はパスのMTUです。有効値の範囲は1～65535です。

ステップ10 ルートマップを[Route Map]ドロップダウンリストで選択し、EIGRPルーティングプロセスに再配布するルートを定義します。ルートマップの設定方法の詳細については、[ルートマップ](#)を参照してください。

ステップ11 [Optional OSPF Redistribution]領域で、どのOSPFルートをEIGRPルーティングプロセスに再配布するかをさらに詳しく指定するために、次のOSPFオプションボタンのいずれかをクリックします。

- [Match Internal] を選択すると、指定されている OSPF プロセスの内部であるルートが対象となります。
- [Match External 1] を選択すると、指定されている OSPF プロセスの外部であるタイプ 1 ルートが対象となります。
- [Match External 2] を選択すると、指定されている OSPF プロセスの外部であるタイプ 2 ルートが対象となります。
- [Match NSSA-External 1] を選択すると、指定されている OSPF NSSA の外部であるタイプ 1 ルートが対象となります。
- [Match NSSA-External 2] を選択すると、指定されている OSPF NSSA の外部であるタイプ 2 ルートが対象となります。

ステップ 12 [OK] をクリックします。

EIGRP でのネットワークのフィルタリング



(注) この手順を開始する前に、標準の ACL を作成し、その中にアドバタイズするルートを定義する必要があります。つまり、標準の ACL を作成し、その中に送信または受信したアップデートからフィルタリングするルートを定義します。

手順

ステップ 1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ 2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [EIGRP Process] フィールドに、EIGRP プロセスの AS 番号を入力します。指定できる AS 番号の範囲は 1 ~ 65535 です。

ステップ 4 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Filter Rules] の順に選択します。

EIGRP ルーティング プロセスに対して設定されているルート フィルタリング ルールが [Filter Rules] ペインに表示されます。フィルタ ルールによって、EIGRP ルーティング プロセスで受け入れまたはアドバタイズされるルートを制御できます。

[Filter Rule] テーブルの各行には、特定のインターフェイスまたはルーティング プロトコルに適用されるフィルタ ルールについての情報が記載されます。たとえば、フィルタ ルールで外部インターフェイスでの「in」方向が指定されている場合は、外部インターフェイスで受信された EIGRP アップデートすべてにフィルタリングが適用されます。フィルタ ルールで方向が

「out」、ルーティングプロトコルとして OSPF 10 が指定されている場合は、発信 EIGRP アップデートで EIGRP ルーティングプロセスに再配布されるルートにフィルタ ルールが適用されます。

ステップ 5 フィルタ ルールを追加するには [Add] をクリックします。既存のフィルタ ルールを編集する場合は、ステップ 6 に進んでください。

[Add Filter Rules] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 6 フィルタ ルールを編集するには、テーブルでそのフィルタ ルールを選択して [Edit] をクリックします。

[Edit Filter Rules] ダイアログボックスが表示されます。フィルタ ルールをダブルクリックして編集することもできます。フィルタ ルールを削除するには、テーブルでそのフィルタ ルールを選択して [Delete] をクリックします。

ステップ 7 このエントリが適用される EIGRP ルーティングプロセスの AS 番号をドロップダウンリストで選択します。

ステップ 8 フィルタ ルートの方向をドロップダウンリストで選択します。

着信 EIGRP ルーティングアップデートからのルートをフィルタリングするルールの場合は、[in] を選択します。ASA から送信される EIGRP ルーティングアップデートからのルートをフィルタリングするには、[out] を選択します。

[out] を選択した場合は、[Routing process] フィールドがアクティブになります。フィルタリングするルートのタイプを選択します。スタティック、接続済み、RIP、および OSPF のルーティングプロセスから再配布されるルートをフィルタリングできます。ルーティングプロセスを指定するフィルタは、すべてのインターフェイスで送信される更新からのルートをフィルタリングします。

ステップ 9 OSPF プロセス ID を [ID] フィールドに入力します。

ステップ 10 [Interface] オプション ボタンをクリックしてから、フィルタを適用するインターフェイスを選択します。

ステップ 11 [Add] または [Edit] をクリックして、フィルタ ルールの ACL を定義します。[Edit] をクリックすると、選択されているネットワーク ルールの [Network Rule] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 12 [Action] ドロップダウンリストで、[Permit] を選択すると指定のネットワークのアドバタイズが許可され、[Deny] を選択すると指定のネットワークのアドバタイズが禁止されます。

ステップ 13 [IP Address] フィールドに、許可または禁止するネットワークの IP アドレスを入力します。すべてのアドレスを許可または禁止するには、IP アドレス **0.0.0.0** とネットワークマスク **0.0.0.0** を使用します。

ステップ 14 [Netmask] ドロップダウンリストで、ネットワークの IP アドレスに適用するネットワークマスクを選択します。このフィールドにネットワークマスクを入力するか、リストから共通マスクの 1 つを選択します。

ステップ 15 [OK] をクリックします。

EIGRP Hello 間隔と保持時間のカスタマイズ

ASAは、ネイバーを検出する目的、およびネイバーが到達不能または動作不能になったことを把握する目的で、定期的に hello パケットを送信します。デフォルトでは、hello パケットは 5 秒間隔で送信されます。

hello パケットは、ASA の保持時間をアドバタイズします。保持時間によって、EIGRP ネイバーに、ASA を到達可能と見なす時間の長さを知らせます。アドバタイズされた保持時間内にネイバーが hello パケットを受信しなかった場合、ASA は到達不能と見なされます。デフォルトでは、アドバタイズされる保持時間は 15 秒です (hello 間隔の 3 倍)。

hello 間隔とアドバタイズされる保持時間のいずれも、インターフェイスごとに設定します。保持時間は hello 間隔の 3 倍以上に設定することをお勧めします。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ3 [OK] をクリックします。

ステップ4 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Interfaces] の順に選択します。

[Interface] ペインに、EIGRP インターフェイスのすべての設定が表示されます。

ステップ5 インターフェイスエントリをダブルクリックするか、またはエントリを選択して [Edit] をクリックします。

[Edit EIGRP Interface Entry] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ6 EIGRP AS 番号をドロップダウンリストで選択します。このリストに表示されるのは、EIGRP ルーティングプロセスをイネーブルにしたときに設定されていたシステム番号です。

ステップ7 [Hello Interval] フィールドに、インターフェイス上で送信される EIGRP hello パケット間の間隔を入力します。

有効値の範囲は、1 ~ 65535 秒です。デフォルト値は 5 秒です。

ステップ8 [Hold Time] フィールドで、保持時間を秒単位で指定します。

有効値の範囲は、1 ~ 65535 秒です。デフォルト値は 15 秒です。

ステップ9 [OK] をクリックします。

自動ルート集約の無効化

自動ルート集約は、デフォルトでイネーブルになっています。EIGRP ルーティングプロセスは、ネットワーク番号の境界で集約を行います。このことは、不連続ネットワークがある場合にルーティングの問題の原因となることがあります。

たとえば、ネットワーク 192.168.1.0、192.168.2.0、192.168.3.0 が接続されているルータがあり、それらのネットワークがすべて EIGRP に参加しているとすると、EIGRP ルーティングプロセスはそれらのルートに対しサマリーアドレス 192.168.0.0 を作成します。さらにネットワーク 192.168.10.0 と 192.168.11.0 が接続されているルータがこのネットワークに追加され、それらのネットワークが EIGRP に参加すると、これらもまた 192.168.0.0 として集約されます。トライフィックが誤った場所にルーティングされる可能性をなくすために、競合するサマリーアドレスを作成するルータでの自動ルート集約をディセーブルにする必要があります。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ3 [Process Instance] タブをクリックします。

ステップ4 [Advanced] をクリックします。

ステップ5 [Summary] 領域の [Auto-Summary] チェックボックスをオフにします。

(注) この設定はデフォルトでイネーブルになっています。

ステップ6 [OK] をクリックします。

EIGRP でのデフォルトルート情報の設定

EIGRP アップデート内のデフォルトルート情報の送受信を制御できます。デフォルトでは、デフォルトルートが送信され、受け入れられます。デフォルトルート情報の受信を禁止するように ASA を設定すると、候補のデフォルトルートビットが受信ルート上でブロックされます。デフォルトルート情報の送信を禁止するように ASA を設定すると、アドバタイズされるルートのデフォルトルートビット設定が無効になります。

ASDM では、[Default Information] ペインに、EIGRP アップデートでのデフォルトルート情報の送受信を制御するルールのテーブルが表示されます。EIGRP ルーティングプロセスごとに、「in」ルールと「out」ルールを 1 つずつ設定できます（現在は 1 つのプロセスだけがサポートされています）。

デフォルトでは、デフォルトルートが送信され、受け入れられます。デフォルトルート情報の送受信を制限またはディセーブルにするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

メインの [EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ2 [Enable EIGRP routing] チェックボックスをオンにします。

ステップ3 [OK] をクリックします。

ステップ4 次のいずれかを実行します。

- 新しいエントリを作成するには、[Add] をクリックします。
 - エントリを編集するには、テーブル内のエントリをダブルクリックするか、テーブル内のエントリを選択して [Edit] をクリックします。
- そのエントリの [Add Default Information] または [Edit Default Information] ダイアログボックスが表示されます。EIGRP AS 番号が [EIGRP] フィールドで自動的に選択されています。

ステップ5 [Direction] フィールドで、ルールの方向として次のオプションのいずれかを選択します。

- [in] : このルールは、着信 EIGRP アップデートからのデフォルトルート情報をフィルタリングします。
- [out] : このルールは、発信 EIGRP アップデートからのデフォルトルート情報をフィルタリングします。

EIGRP プロセスごとに、「in」ルールと「out」ルールを 1 つずつ設定できます。

ステップ6 ネットワークルールテーブルにネットワークルールを追加します。ネットワークルールでは、デフォルトルート情報を送受信するときに許可されるネットワークと拒否されるネットワークを定義します。デフォルトルート情報フィルタルールに追加するネットワークルールごとに、次の手順を繰り返します。

- ネットワークルールを追加するには [Add] をクリックします。既存のネットワークルールをダブルクリックしてルールを編集します。
 - [Action] フィールドで、そのネットワークを許可する場合は [Permit] をクリックし、ブロックする場合は [Deny] をクリックします。
 - [IP Address] フィールドと [Network Mask] フィールドに、ルールによって許可または拒否されるネットワークの IP アドレスとネットワークマスクを入力します。
- すべてのデフォルトルート情報の受け入れや送信を拒否するには、ネットワークアドレスとして **0.0.0.0** を入力し、ネットワークマスクとして **0.0.0.0** を選択します。
- 指定したネットワークルールをデフォルトルート情報フィルタルールに追加するには、[OK] をクリックします。

ステップ7 デフォルトルート情報フィルタルールを受け入れるには、[OK] をクリックします。

EIGRP スプリットホライズンのディセーブル化

スプリットホライズンは、EIGRP アップデートパケットとクエリーパケットの送信を制御します。スプリットホライズンがインターフェイスでイネーブルになると、アップデートパケットとクエリーパケットは、このインターフェイスがネクストホップとなる宛先には送信されません。この方法でアップデートパケットとクエリーパケットを制御すると、ルーティングループが発生する可能性が低くなります。

デフォルトでは、スプリットホライズンはすべてのインターフェイスでイネーブルになっています。

スプリットホライズンは、ルート情報が、その情報の発信元となるインターフェイスからルータによってアドバタイズされないようにします。通常、特にリンクが切断された場合には、この動作によって複数のルーティングデバイス間の通信が最適化されます。ただし、非ブロードキャストネットワークでは、この動作が望ましくない場合があります。このような場合は、EIGRP を設定したネットワークを含め、スプリットホライズンをディセーブルにする必要が生じこともあります。

インターフェイスでのスプリットホライズンをディセーブルにする場合、そのインターフェイス上のすべてのルータとアクセスサーバに対してディセーブルにする必要があります。

EIGRP スプリットホライズンをディセーブルにするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Interfaces] の順に選択します。

[Interface] ペインが表示され、EIGRPインターフェイスの設定が表示されます。

ステップ2 インターフェイスエントリをダブルクリックするか、またはエントリを選択して [Edit] をクリックします。

[Edit EIGRP Interface Entry] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ3 EIGRP 自律システム (AS) 番号をドロップダウンリストで選択します。このリストに表示されるのは、EIGRP ルーティングプロセスをイネーブルにしたときに設定されていたシステム番号です。

ステップ4 [Split Horizon] チェックボックスをオフにします。

ステップ5 [OK] をクリックします。

EIGRP プロセスの再始動

EIGRP プロセスを再始動したり、再配布またはカウンタをクリアしたりすることができます。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] の順に選択します。

[EIGRP Setup] ペインが表示されます。

ステップ2 [Reset] をクリックします。

EIGRP のモニタリング

次のコマンドを使用して、EIGRP ルーティングプロセスをモニタできます。コマンド出力の例と説明については、コマンドリファレンスを参照してください。また、ネイバー変更メッセージとネイバー警告メッセージのロギングをディセーブル化できます。

さまざまな EIGRP ルーティング統計情報をモニタまたはディセーブル化するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 メイン ASDM ウィンドウで、[Monitoring] > [Routing] > [EIGRP Neighbor] の順に選択します。

各行は1つの EIGRP ネイバーを表します。ネイバーごとに、リストにはその IP アドレス、接続先のネットワーク、保持時間、アップタイム、キュー長、シーケンス番号、スマーズラウンドトリップ時間、再送信タイムアウトが表示されます。考えられる状態変更のリストは次のとおりです。

- [NEW ADJACENCY] : 新しいネイバーが確立されました。
- [PEER RESTARTED] : 他のネイバーがネイバー関係のリセットを開始しました。メッセージを受け取ったルータは、ネイバーをリセットしているルータではありません。
- [HOLD TIME EXPIRED] : 保持時間が経過しても、ルータは EIGRP パケットをネイバーから受け取っていません。
- [RETRY LIMIT EXCEEDED] : EIGRP は EIGRP 高信頼性パケットに対する確認応答をネイバーから受け取らなかつたため、高信頼性パケットの再送信をすでに 16 回試行しましたが、一度も成功しませんでした。
- [ROUTE FILTER CHANGED] : ルートフィルタに変更があったため、EIGRP ネイバーがリセットしています。
- [INTERFACE DELAY CHANGED] : インターフェイスでの遅延パラメータの手動設定変更があったため、EIGRP ネイバーがリセットしています。

- [INTERFACE BANDWIDTH CHANGED] : インターフェイスでのインターフェイス帯域幅の手動設定変更があったため、EIGRP ネイバーがリセットしています。
- [STUCK IN ACTIVE] : EIGRP がアクティブ状態のままスタックしているため、EIGRP ネイバーがリセットしています。ネイバーがリセットされるのは、stuck-in-active 状態となつたためです。

ステップ2 モニタする EIGRP ネイバーをクリックします。

ステップ3 現在のネイバー リストを削除するには、[Clear Neighbors] をクリックします。

ステップ4 現在のネイバー リストの表示を更新するには、[Refresh] をクリックします。

(注) デフォルトでは、ネイバー変更メッセージとネイバー警告メッセージはロギングされます。

EIGRP の履歴

表 1: EIGRP の機能の履歴

機能名	プラットフォーム リリース	機能情報
EIGRP サポート	7.0(1)	Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) を使用するデータのルーティング、認証の実行、およびルーティング情報の再配布とモニタリングのサポートが追加されました。 次の画面が導入されました。 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP]。
マルチコンテキスト モードのダイナミック ルーティング	9.0(1)	EIGRP ルーティングは、マルチコンテキスト モードでサポートされます。 次の画面が変更されました。 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup]。
クラスタ	9.0(1)	EIGRP の場合、バルク同期、ルートの同期およびレイヤ2 ロード バランシングは、クラスタリング環境でサポートされます。

機能名	プラットフォーム リリース	機能情報
EIGRP Auto-Summary	9.2(1)	EIGRP の [Auto-Summary] フィールドはデフォルトでディセーブルになりました。 次の画面が変更されました。 [Configuration] > [Device Setup] > [Routing] > [EIGRP] > [Setup] > [Edit EIGRP Process Advanced Properties]